

平成30年度第3回 印西市市民活動推進委員会 会議要旨

1. 開催日時 平成30年8月3日（金） 午前9時35分～11時50分
2. 開催会場 印西市文化ホール 大会議室
3. 出席者 志村はるみ委員長職務代理、椎名武博委員、大和正明委員、安倉史典委員、林典子委員、矢野眞理委員、桑田佳雄委員、浅賀博委員、樋口祥明委員、坂本富彦委員（以上10名）
4. 事務局 市民活動推進課 豊田課長、金井係長、杉山
5. 傍聴者 なし（非公開）
6. 会議内容
 - 1 開会
 - 2 議題
 - (1) 平成30年度企画提案型協働事業の公開審査会（アイデア審査）について
 - (2) 平成30年度企画提案型協働事業の提案事業について
 - (3) 平成30年度企画提案型協働事業の公開審査会（最終審査）について
 - (4) その他
 - 3 閉会

7. 会議要旨

2 議題

- (1) 平成30年度企画提案型協働事業の公開審査会（アイデア審査）について

〔参考資料〕資料2～4

《事務局説明》

資料2～4に基づき、平成30年度企画提案型協働事業の諮問内容と、8月17日に開催される公開審査会（アイデア審査）のプログラム及び評価の方法について説明した。今年度は自由提案型4件、指定テーマ型1件の計5件の提案があり、書類上は特に問題がないものと判断された。

特に異議がなければ、自由提案型のうち継続提案の3件についてはアイデア審査を省略して最終審査に進出とし、自由提案型の新規提案1件と指定テーマ型1件について、アイデア審査を実施することとする。

《委員質疑》

- ・はじめての審査会なので確認しておくが、今回の審査は予備審査という位置付けか。
→アイデア審査と最終審査は位置付けとしては同じであり、予備審査というより、2回の本審査を行うというイメージである。ただし、昨年度から継続して実施している提案事業については、アイデア審査は省略している。（事務局）
- ・審査会に担当課は参加するのか。

→アイデア審査の段階では担当課が決まっていないため、参加することはない。ただし、指定テーマについては担当課から募集をかけているため、担当課もプレゼンテーションに同席する。担当課への質問も可能である。(事務局)

- ・指定テーマの審査も同じ審査表を使うということでよいか。

→同じ審査表を使っていたら。(事務局)

《委員長職務代理 確認》

- ・例年、審査結果の集約は委員長と職務代理の2名で行っているが、粉川委員長が当日欠席予定のため、今回は学識経験者の坂本委員に協力をお願いしたい。

→坂本委員了承。その他の委員異議なし。

- ・事務局説明のとおり、審査を実施することとしてよろしいか。

→異議なし。(全委員)

(2) 平成30年度企画提案型協働事業の提案事業について

[参考資料] 資料5～8

《事務局説明》

資料5～8に基づき、提案団体の概要、提出された協働の機会提案書について確認した。自由提案型の継続提案3件については、昨年度に提出された協働の機会提案書(資料7)、担当課から提出された事前協議チェックシート(資料8)もあわせて確認した。なお、継続提案の審査は10月の最終審査まで行われないので、今回が検討する最後の機会となる。

はじめに、自由提案型の継続提案3件についてそれぞれ内容を確認し、続いて新規提案1件と指定テーマ「竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業の実施」への提案1件について、審査時に行う質問事項を検討した。

《委員長職務代理 確認》

- ・審査会で効果的に質疑を行うため、この場で質問事項を検討してよろしいか。

→異議なし。(全委員)

《企画提案の検討》

【提案2】 武西の里山 調査と保全事業(提案者: NPO法人谷田武西の原っぱと森の会)

※提案2が議題の際、矢野委員は関係者のため室外へ退席。

- ・昨年度は、提案者と担当課の環境保全課が協議した段階で実施内容に食い違いが生じ、委託内容を一部削ったと記憶しているが、今回は調整できているか確認したい。

→今年度事業を実施する中で、コミュニケーションが進んでいると聞いている。最終提案があがってくるまでに、現在の課題を踏まえて調整が進むものと期待される。(事務局)

- ・昨年度の審査で、金額が低廉だという意見や、事業区域に白井市が一部入っているのではないかとといった意見があったと思う。事実関係を確認しておきたい。

→事業経費は資料7(提案2)に記載されているとおりで、提案者と担当課が協議して決定した金額である。実施区域に白井市域は含まれていない。(事務局)

【提案3】 イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業(提案者: NPO法人里地里山保全ねっと)

- ・資料7によると、提案団体によって市負担と団体負担の人件費の割合が異なっているが、市への

要望に対する決まり等の考え方について確認したい。

→客観的な根拠と言えるものではなく、団体が市と協議して経費負担は決定される。審査では、提案書の経費内訳書に基づいて検討していただくことになる。その中で提示された積算が事業実施にあたって妥当な必要経費かどうかを、常識の範囲で判断していただきたい。(事務局)

- ・新たな提案内容は環境整備に事業目的がシフトしているように見受けられる。昨年度に事業が採択されたときの趣旨を変えるということになると引っかかりを覚える。
- ・農地以外に整備範囲を拡大するということになると、農地保全という当初の事業目的を超えてしまうことになる。農地以外に拡大したいということであれば、その部分は自主事業として実施する方が妥当であろう。
- 本団体は一昨年度に環境整備を目的とした「荒れた里山の整備事業」を企画提案したが、環境保全課との調整がつかず提案を取り下げ、昨年度にあらためて現在の目的にしぼって提案してきたという経緯がある。(事務局)
- ・団体の会員数が少ない中で、どれだけ作業ボランティアを集められるのかなど、具体的な実施策について確認したい。
- ・当初の提案と新たな提案の間の関連性や必要性を論理的に説明することが重要であろう。
- 本日の記録や意見を事務局から団体や担当課に伝えることは可能である。(事務局)
- 事前に意見を伝えていただき、よく検討していただきたい。(志村委員長職務代理)

【提案4】自主防災組織の活性化事業（提案者：印西防災研究会）

- ・活性化と言っても簡単ではない。団体の力量も含め、具体的にどう活性化を進めていくのか確認したい。
- ・地元の町内会でも様々な防災の取り組みを行いながら、できることを模索している。行政では対応が難しく、地域が取り組むべきもっとも重要な防災対策は安否確認である。
- ・事業のニーズはある。活性化の具体的な内容を審査で確認することは必要であろう。
- ・目的は明確で、事業としてのニーズは高い。数値などで活動の目標が示されるとよいと思う。安否確認等において必要となる個人情報の問題をどう取り扱うのかに興味がある。
- ・地域の防災活動には地域住民が参加できる仕組みが必要である。自主防災組織を10%増やすという目標は示されているので、その実現策を確認することが必要だと思う。
- 市でも要支援者への対応について現在取り組んでいるところである。(事務局)
- ・災害時に一番対応が難しいのは外国人の受け入れである。普段はつきあいがなくとも等しく受け入れないといけない。

【提案1】訪問傾聴ワーカー（見守り隊）養成講座（提案者：こむnet ちば）

- ・ボランティアの養成期間や実施内容について確認したい。
- ・団体がまず主体的に見守り活動を実施してもよいのではないかと。経験なしに養成講座を実施するスキルがあるのか疑問がある。
- ・民生委員のなり手が少なく、補完の必要性については理解できる。しかし、守秘義務なども含め、高齢者世帯への対応は非常に難しい。事業として成り立つのか懸念がある。
- ・地域包括支援センターにつなげるのが事業趣旨のように感じる。クレーム対応は大丈夫だろうか。
- 今回提案された企画は人材養成講座であり、養成後の活動は提案に含まれていない。(事務局)

- ・講師のレベルや受講対象者について確認したい。
- ・講座修了後の受講者の活躍の場に関する展望について確認したい。
 - 質疑時間が10分と限られているので、提案者にもなるべく簡潔に回答するようお願いしているが、質問についてもなるべく簡潔にお願いしたい。プレゼンテーションの中で予定した質問に対する説明が十分行われたと判断されれば、その質問は省いていただいてもかまわないと思われる。

(事務局)

【提案5】竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業（提案者：NPO法人エコネットちば）

- ・昨年度と同程度の委託料と事業内容か。
 - 資料7（提案5）にあるとおり、昨年度の経費は約300万であり、今年度の提案と同程度である。委託料が同程度であれば、おそらく事業内容も同規模ではないかと想像される。（事務局）
- ・現地に行ってみたが、観光マップにも掲載されておらず、場所を見つけるのに難儀した。駐車場も見当たらなかった。もっとPRが必要ではないかと感じた。

《委員長職務代理 確認》

- ・企画提案5件について、すべて了承とする。

(3) 平成30年度企画提案型協働事業の公開審査会（最終審査）について

〔参考資料〕資料9、10

《事務局説明》

資料9、10に基づき、10月5日に開催予定の公開審査会（最終審査）の進行及び評価の方法について説明した。

→質疑なし

(4) その他

《事務局報告》

昨年度から健康増進課と協働で事業を実施している「地域住民への身体活動増進プログラムの提供」について、企画提案型協働事業としては今年度で終了する意向が実施団体のALIpro（アリプロ）から示された。団体からは来年度の成果報告会の場で詳しい経緯が説明されると思うが、可能であれば1月ごろに開催予定の市民活動推進委員会でも議題にできればと考えている。

《委員質疑》

- ・特段問題がなければその方向で調整していただきたい。（志村委員長職務代理）
 - 粉川委員長にも相談した上で進めていきたい。（事務局）
- ・団体の説明を受ける機会はあるのか。
 - 通常スケジュールでは来年の5月ごろに今年度事業の成果報告会が実施されるので、その場で団体から直接説明を受けることになる。（事務局）
- ・今年度1回目の委員会で、市民活動推進課も積極的に調整に関わるよう粉川委員長から示唆があった。それを受けてこれから動いていくということか。
 - 委員長の示唆を受けて、ここまで市民活動推進課として協働推進の立場からテコ入れを図ってきた

た。しかし結果としては、今年度をもって企画提案型協働事業としては終了することになった。すでに結論は出てしまっているのので、今後はこれまでの成果や課題を検証する機会が必要だと考え、本日報告した次第である。(事務局)

- ・事業としては単年度ごとの実施である。どのような視点で検証するつもりか伺いたい。
- 本事業は、当初は3年間継続する中で、広く市民に浸透させる展望を持っていたが、計画どおりにいかない結果となった。今後も同様のケースが出てこないとは限らないので、本事業に限った問題としてではなく、企画提案型協働事業を推進していくために必要な検証という切り口からご意見を伺えればと考えている。(事務局)

以上